

石川県健康福祉部長との意見交換会報告

1. 日時 2006. 8. 30 (水) 10時～11時
2. 会場 石川県庁9階会議室
3. 参加 生協連 横山会長理事、庄田副会長理事、表専務理事、佐原食の安全委員長、
鈴木、廣瀬 (事務局)、加藤
石川県 木村健康福祉部長、食品安全対策室 若林、清水、高村
健康福祉部厚生政策課より3名

4. 意見交換会内容

1)横山生協連会長あいさつ

食の安全行政については、行政とパートナーシップをとってやっていきたい。生協には生活文化の向上に貢献するという、事業目的がある。大学生協の話だが、学生の中で向き合って食事をできない学生がいる。一人で食べることが身についている。また、若いお母さんの中には、買って来た手づくりお惣菜を手づくりと思っているお母さんもいる。生協にとっても食育は大切であり、食の安全・安心をベースに考えていきたい。

2)意見交換会

①食育の取り組みについて

廣瀬 (事務局)

平成18年度に設置される「いしかわ食育推進計画 (案)」の策定委員の構成はどう進められているのか?

部長 食育の基本計画は、家庭、学校、地域、消費者、食文化、安全、栄養と幅広い分野にまたがっている。生協連からも委員として参加をお願いしたい。

廣瀬 県外の食育に関する推進計画および条例への評価は?

部長 他県のよいところを参考に石川県にふさわしいものを作っていく。

廣瀬 推進計画に設ける「数値目標」の設定次第で、予算も含めた新たな事業投資が必要なのでは?

部長 目標を設けるかどうかも含め、策定委員会で検討していきたい。

廣瀬 学校教育向けの「食に関する手引き」はどう利用されているのか?

部長 指導の年間計画に活用されている。

廣瀬 生協でも食育の取組みを進めているが、支援体制のあり方を検討していただきたい。

部長 食育推進計画を実施する時に検討していきたい。

表 食育は幅広い分野に関係すると思うが、県庁内の連携はどうっていくのか。計画が策定され5年くらいはPDCAが回る体制づくりが必要と思うがどうか。石川県の食文化、地産地消をどう組み込んでいくのか考えがあれば大卒でよいのでお聞きしたい。

部長 食育は幅広い分野が関係してくる。健康福祉部、農林水産部、教育委員会など広い分野から策定委員会に入ってもらい、その体制の中で考えていきたい。石川県の食文化を盛り込んだ食育についても議論し、盛り込んでいきたい。

廣瀬 県の出前講座に食育の講座も盛り込んでほしい。要望としてお願いしたい。

表 昨年生協連で行った食生活アンケートで課題がでてきている。家庭での食育、学生の食育をどうしていくかが生協にとっても大きな課題である。家庭を巻き込んだ食育についての考え方があればお聞かせいただきたい。

部長 少子化の問題もあり、家族バラバラに食事することが多い。また一緒に食事をしていても会話を

しない家庭もある。基本的な食育が家庭で欠けている、どう補っていくかが大切である。家庭での食の部分は重要なことであり、策定委員会の中でも意見を賜り考えていきたい。

表 策定委員会は幅広い層からの人選になっており、よかったと思っている。

部長 秋からスタートさせていく。生協は消費者、流通の広い立場から意見を出していただける良い組織だと思っている。

表 評価していただきありがたい。食の安全委員会の中でも、考えを出しあい提案にいかしていきたい。

加藤 ごみの4割が台所から出るごみであり、そのうち4割が食べ残し（1割は賞味期限内の食品）がそのまま捨てられている。食育推進計画の中に環境教育の分野もぜひ盛り込んでほしい。

部長 食育はいろいろな分野に接点がある。委員会の中に意見を出してほしい。

②食の安全行政について

廣瀬 食の安全について条例化の考えはあるのか？

部長 食品衛生法に基づいてやっている。石川県の場合は基本方針にもとづく計画で施行しており、条例化の考えはない。

表 食の安全に関する県の法律をつくり、それをベースに取組みを進めてはどうか。

部長 食品衛生法で対応できている。ふぐなど特例の物は条例化が必要である。基本方針をしっかりとやっていくことでよいと思う。

廣瀬 基本計画および行動計画が策定されてから3年になる。評価や課題を整理すべきでは？

部長 基本方針の改定を視野に入れた施行の方が良い。

佐原 ポジティブリスト制度について検査結果の公表などの対応や石川県の検査結果の扱いについてお伺いしたい。

部長 自主回収など行い、公表については社会的影響やダメージもあるため、よく検討していきたい。

廣瀬 監視指導計画の実施結果の公表について、四半期または上期、下期での公表はできないか。リスクコミュニケーションのあり方について改善が必要なのではないか。

部長 石川県では四半期ごとに公表している。リスクコミュニケーションについてはいいアイデアがあれば提案していただきたい。

以上